

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（小学校）

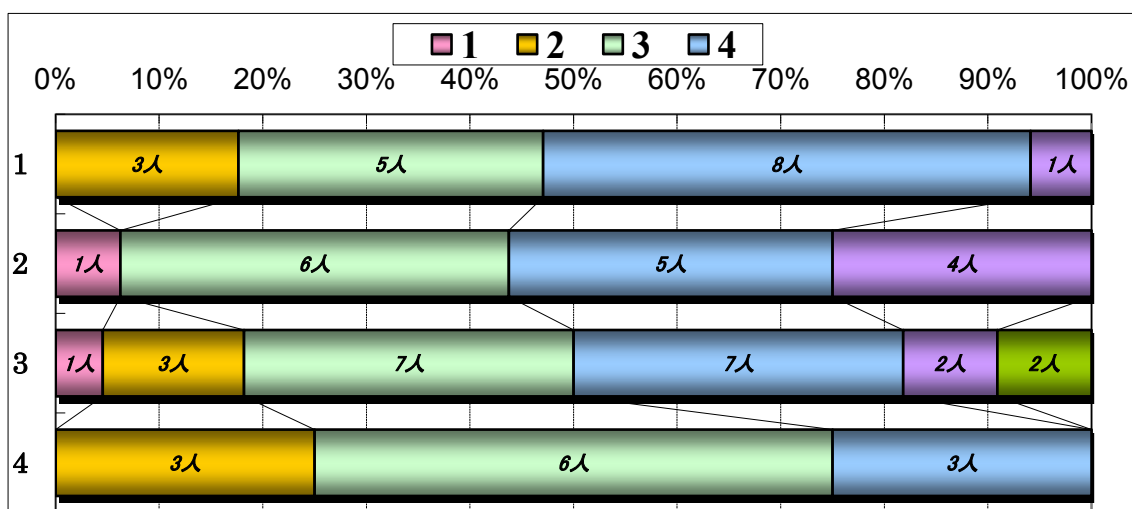
【白岡市教育委員会】

1 本校の学力向上に係る取組

本校では、過去4年間、基礎学力の向上を目指し、特に、漢字の習得、計算力の向上に力を注いできた。教育課程における具体的な工夫は、①日課表に漢字タイム、計算タイムを位置づけ、全校児童が教師の指導のもと一斉に取り組む②校内たしかめテストを学期に1回実施することで学習のめあてを持たせる③サマースクールをおこない、異学年や学校応援団の協力を得て、学習の確実な習得に努める④学校と家庭とで連携し、家庭学習の充実、習慣化をめざすなどである。とくに、ドリル類の反復練習、日常的な漢字練習については、担任が一丸となって取り組んでいる所である。その結果、基礎学力の向上について一定の成果が見られるようになってきた。

2 分析プログラムの活用

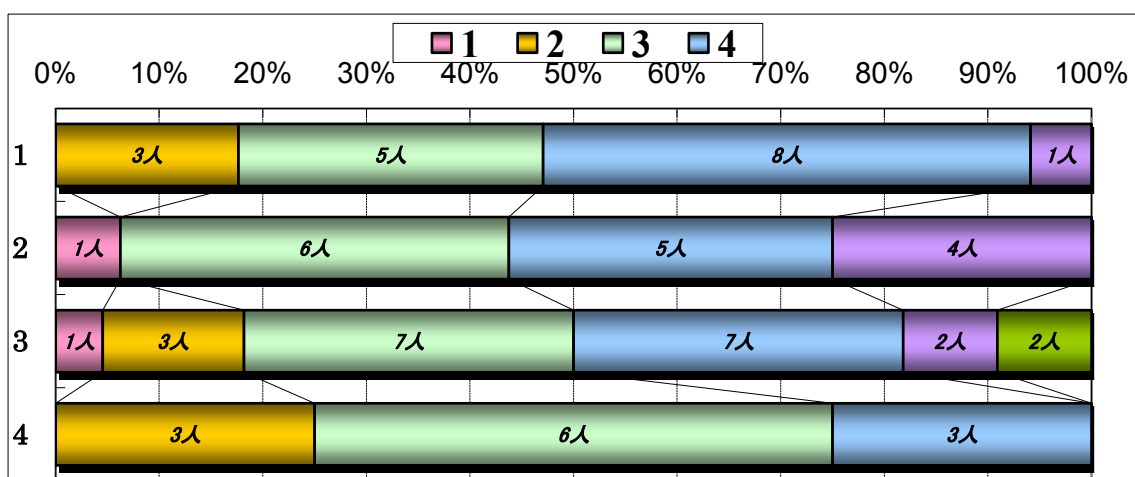
算数【技能表現】（縦軸）と家庭学習の時間（横軸）についての関係を調べてみた。



1→全くしない またはほとんどしない 2→30分より少ない 3→30分以上、1時間より少ない
 4→1時間以上、2時間より少ない 5→2時間以上、3時間より少ない 6→3時間以上する
 7→そのままにしておく

学校の学習の他に、1時間から2時間程度、家庭で学習している児童について、優位性が見られた。学習時間の長さがそのまま、算数【技能表現】の伸びにつながるとは言えないが、1～2時間の家庭学習の習慣は大切な要素であろう。

次に、算数【技能表現】（縦軸）と「近所の人にあつたときはあいさつをしている」か（横軸）についての関係を調べてみた。



1→そう思う 2→どちらかといえばそう思う 3→どちらかといえばそう思わない 4→そう思わない

5→わからない

元気にあいさつをする児童は、学種面でもしっかりしていそうで、

3 具体的な取組

(1) 家庭学習の習慣化

学年×10分+10分を時間のめやすとし、全校児童へ家庭学習の習慣ができるよう指導していく。また、「家庭学習の定着に向けて」を作成、1学期始めの懇談会で保護者に説明し、学校と家庭とが協力して学習習慣の形成していけるよう呼びかける。

(2) あいさつ運動

高学年、児童会が主体となり、毎朝、校門であいさつ運動を実
う取り組んでいる。年々、声の大きさが大きくなっている。

(3) 校内たしかめテストの実施

学期に1回、漢字、計算における技能の習得を目指して、たしかめテストを実施して
いる。今年度から、【考え方】の問題も取り入れはじめた。

(4) 算数少人数指導の実施

算数主任が中心となって、ノート書き方、授業の進め方、板書の仕方、副教材のドリル等、学校全体で統一した指導ができるよう努めている。きれいなノート、数学的な考え方を伸ばす発問、1時間の流れがわかる板書、ドリルの使い方など、細かな部分まで指導方法を確認し、学校全体で取り組んでいる。



4 成果と課題

平成24年度の結果「数量や図形についての技能」は、73.0（県71.6町74.5）であった。これまでの取組の継続と、基礎を活用した「数学的な考え方」を伸ばしていきたい。